



教育目標

「自学、信愛、努力を基本とし、人間らしい生き方を求める生徒を育てる」

NANBU

学校だより第6号

水見市立南部中学校

令和2年10月5日

ベストスマイル 輝け！！最高笑顔 ～歴史を変える進化の刻～

本年度の運動会のテーマです。コロナ禍の中、6月の学校再開当初は開催が危ぶまれましたが、去る9月16日、天候にも恵まれ、無事に実施することができました。

開催決定を伝えた際、中には「え？できるんだ！」という声を発した生徒もいたそうです。学校行事、対外行事が軒並み中止となっていた中で、やっと運動会だけはできると安堵した思いだったのでしょうか。とは言うものの、感染症対策はきちんと行った上で・・・という絶対条件があったので、平日半日開催とした上で、どのような形で実施するかを慎重に吟味する必要がありました。

まず、議論の対象となったのは、マスコットづくりです。準備期間が大幅に短縮となることから、「本年度は作成しない」「規模を縮小する」などの声もありましたが（主に校長です）、3学年の強い要望により、例年どおりのものとなりました。結果的に、担当生徒のすさまじい集中力と協力体制により、素晴らしいできばえとなりました。



<赤団：戮力協心> <白団：旭日昇天> <青団：英雄豪傑>

また、実施種目にも配慮が必要でした。文部科学省が提示しているガイドラインでは、「生徒が密集する運動」や「近距離で組み合ったり接触したりする場面が多い運動」は実施を見合わせる旨が示されています。そこで、そうならない種目を生徒に考えてもらったところ、なかなか粋な種目を提案してくれました。オーソドックスな玉入れにボーナスボールを加えることでアクセントを効かせた「Pon Pon ラッシュ」。例年学年種目や障害物競走で使用されていた小道具を組み合わせた「繋げろ！南部の伝統を」。重い気分になりがちなのコロナ対策を愉快に取り入れた「ぴったり！2mディスタンス☆」。生徒の発想の豊かさには、驚かされました。



<繋げろ！南部の伝統を>

「日本海、南中ソーラン」は、例年より間隔を広くとったり隊形移動をウェーブに変えたりして、「応援合戦」は、演技時間を短縮し、声を出す場面を極力少なくして実施しました。「やらない」方向も考えたのですが、結局は、南中の伝統を後輩に伝えたいという3学年の思いに沿った形となりました。



<日本海、南中ソーラン>

全員100m走では、一人一人が力一杯走りました。リレーでは、選手は力強く走り、見ている生徒は懸命に応援しました（このときばかりは拍手ではなく、大きな声援になっていました）。一言で言うと、すがすがしい運動会でした。

それというのもやはり、最高学年である3年生の生徒が適材適所のよい動きをしたからだと思います。応援合戦、南中ソーラン、生徒会種目の指導等、様々な場面で失敗したり困難にぶつかったりしながらも、辛抱強く我慢し、自らの指導を振り返り、改善策を考えて頑張りました。コロナ禍により、学校生活において「なすことによって学ぶ」場を大幅に削減せざるを得なくなっている中、まさに生徒の手作りと言える運動会を実施できたことは、南部中学校全校生徒にとって大きな収穫だったと感じました。

保護者の皆様には、来校人数を絞る、観覧場所を指定するなどのお願いに快くご協力いただき、深く感謝しております。ありがとうございました。

令和2年度アクションプラン中間報告

AP1 主体的に学習を進め、互いの考えを深め合う生徒の育成 成果と課題

- ・新しい生活様式に基づく学校生活において、思いや考えを表現する機会を十分に設定できなかったことから、全校達成率は昨年に比べて低下している設問が多い。感染症防止対策を行いながら、「自分の考えをうまく伝えるよう」工夫する生徒の育成に向けて指導する必要がある。
- ・生徒が基礎的・基本的な内容を確実に身に付け、思考を深めることができるよう、意欲が連続してつながる学習課題を設定する、適切な振り返りの場を見極めるなど、教師が授業力の向上に努める必要がある。

意識調査項目		達成度
1	課題の解決に向けて、積極的に取り組むことができた。	87.4%
2	授業には、自分の思いや考えをもって参加することができた。	84.2%
3	授業では自分の思いや考えを伝えることができた。	65.4%
4	自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立て等を工夫して発表することができた。	64.4%
5	友達の思いや考えをしっかりと聞くことができた。	97.8%
6	友達の考えを踏まえて話し合うことができた。	89.8%
7	全体で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広めたりすることができた。	88.1%
8	授業において、学習課題を振り返ることができた。	78.4%
9	家庭学習では、1日平均1年生は70分、2年生は90分、3年生では120分以上学習ができた。	66.6%

AP2 思いやりの心を大切に、よりよい集団を目指して行動する生徒の育成 成果と課題

- ・爽やかな挨拶、相手のことを考えた言動を意識しながら生活していると思われる。
- ・委員会活動や係活動等に対する意識調査のポイントは高い。本年度はコロナ対応のため、各種学校行事の中止・規模縮小が相次ぎ、生徒会や学級等での活動も大きく制約されている。それでも生徒は、自分にできることを考えながら、力強く日々の学校生活を送っている。感染症との戦いは今後も続くものと予想されるが、そんな中でも、生徒がよりよい校風を築いていくための意識を維持できるよう働きかけていきたい。

意識調査項目		達成度
1	相手の気持ちを考えた言葉や行動を心がけた。	95.9%
2	自分から挨拶ができた。	93.9%
3	よりよい学校にするために、自分にできることを考えながら委員会活動や係活動、日々の当番活動に取り組むことができた。	91.1%

AP3 健康な生活の実現に向けて、自己管理できる生徒の育成 成果と課題

- ・ゼロメディア運動では、保健委員会からの毎日のコメントに応え、自分の取組を反省したり次の日の就寝時刻を早めたりするなど、意識が高くなる様子がみられた。
- ・本校は全体的に睡眠時間が短く、授業中に眠いと感じている生徒の割合が県平均より高い。睡眠の質や量の大切さを理解させ、自己管理できるように更に呼びかけていく必要がある。

意識調査項目		達成度
1	ゼロメディア運動期間中に、メディア利用時間を減らし、家庭学習を増やした。	83.0%
2	運動期間中は、睡眠時間をしっかりと確保した。	81.0%
3	新型コロナウイルス感染症について正しく理解し、主体的に対策に取り組んだ。	94.0%
4	自分の健康課題を把握し、生活習慣を改善しようと心がけた。	93.2%

学校評議員の皆様の意見より（抜粋）

- ・失敗することも成長期の子供にとって大切な財産である。コロナ禍で多くの学校行事等が中止・規模縮小となる中、そうした機会が例年より少なくなることが、子供たちの将来にどのように影響するかが心配である。
- ・世の中大変な状況ではあるが、それでも集団生活ができていくということは、子供たちにとって大きな財産になる。制約が多い中ではあるが、今後も学校生活において様々な経験をさせてほしい。
- ・コロナ禍が長期に及ぶと予想されることから、しばらくは今の状況を通常と捉え、子供たちにとってできる限り充実した教育活動となるよう工夫してほしい。

学校からのお知らせとお願い

○学習発表会について

10月24日（土）、学習発表会を開催します。内容はクラス合唱の発表と美術作品等の展示です。

今年度は新型コロナウイルスによる感染症拡大防止のため授業参観を実施することができず、生徒の学習の様子を保護者の皆様に見ていただけないことを残念に思っておりました。この機会にぜひ、日頃の学習の成果を見ていただきたいと思います。

感染症対策として、学年別の発表とさせていただきます。各学年の保護者の皆様の鑑賞時間は、「南中通信」でお知らせしたとおりです。ご来校の際は、朝の検温、マスク着用、手指消毒等にご協力ください。

なお、昼食は学校で弁当を用意する予定です。10月26日（月）は振替休業日となります。